

長期間の高温に関する新潟県気象情報第1号に伴う 農作物等の管理対策

平成29年8月3日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台から8月3日15時10分に発表された「長期間の高温に関する新潟県気象情報第1号」によると、8月4日頃から2週間程度は気温の高い状態が続く見込みです。また、8月3日14時30分に発表された「北陸地方1か月予報」によると、9月4日までの向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%となっています。

しばらく気温が高い状態が続くと予想されることから、今後の気象変動に十分留意し、下記の管理対策の徹底をお願いします。

熱中症を防止するため、農作業は気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行うなど十分注意してください。

また、日本の南に発生している台風第5号の今後の進路予報に留意してください。

記

1 水 稲

(1) 生育後期の水管理

ア こしいぶき・コシヒカリともに、白未熟粒の発生を抑え、品質を確保する上で非常に重要な時期であるため、出穂期前後から出穂期の25日後までは、根の活力を保ち、土壌からの窒素供給を図るため、飽水管理を徹底する。

イ 異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体からの急激な蒸散による障害の発生（白穂や着色粒、稔実障害等）を防止する。ただし、高温下の長期間の湛水は根腐れにつながるため、適宜水の更新を行う。

(2) 追肥

コシヒカリでは、高温が続くと栄養不足につながる場合があるため、現在、葉色が淡く、2回目の穂肥施用後も葉色の低下が見られる場合は、地域情報を参考に、出穂期の3日前までに追加穂肥を施用する。

また、全量基肥施肥（基肥一発）では、今後、葉色が低下し、出穂期の葉色値（SPAD値）が32～33を下回ると予想される場合には、地域情報を参考に追加穂肥を施用する。

(3) 病虫害防除

斑点米カメムシ類の注意報が発表されており、さらに高温により、カメムシ類全般の加害活動が活発になることが懸念される。出穂状況を確認して、品種およびカメムシの発生種に応じた薬剤防除を適期に、確実に実施する。

2 大 豆

(1) 干ばつ対策

湿害により、根張りが悪いほ場では、夏期の急激な土壌乾燥により、落花・落莢、小粒化の被害を受けやすいので、以下の干ばつ対策を確実に実施する。

ア 暗きょ栓の管理

地下水位が60～70cm以下に低下する排水の良いほ場では、暗きょ栓を閉めて、土壤水分保持に努め、夏期の干ばつ害軽減を図る。

イ かん水

(ア) かん水を行うほ場は、周囲明きょや弾丸暗きょ等が施工され、1日以内に地表水を排水できるほ場に限定する。

(イ) かん水は、朝や夕方ほ場を観察し、最頂葉中央の個葉が直立し、ほ場全体で葉の裏面が目立ってきた場合や、地下水位が60～70cm以下に低下した場合に実施する。

(ウ) かん水時は暗きょ栓を閉じ、かん水終了後に開放する。

(エ) 区画の大きいほ場では、数日かけてかん水し、水口側の湿害を防止する。

(2) 病虫害防除

ダニ類など高温時に多発する害虫の発生動向を把握し、被害が見られ、拡大が懸念される場合は早めに防除を行う。

3 園芸作物共通

(1) ほ場が乾燥しやすいことから、夕方又は早朝等のかん水や敷きわら、敷草、マルチ被覆等で土壤水分を確保する。

(2) 施設栽培では、ツマ面や側面の解放による換気や遮光資材の被覆等を行う。

(3) 薬剤散布は、朝夕の涼しい時間帯に実施する。高温時は、薬害の発生を助長する恐れがあるので実施しない。

4 野菜

(1) かん水等の管理

ア 地温上昇を抑制するために、生育中の果菜類等は厚めに敷きわら等をする。

イ 土壤水分の確保と地温低下を図るため、かん水施設のあるほ場では夕方にかん水する。畦間かん水する場合は、根腐れを避けるため長時間滞水しないようにする。

ウ 乾燥により発芽率低下や発芽が不揃いとなるだいこん、にんじん等は、発芽の安定を図るため、発芽までスプリンクラーなどで1日数回かん水し土壤表面の乾燥を防ぐ。

(2) 施設野菜の管理

ア 高温障害が発生しやすいため、急激な温度上昇のないよう遮光や換気などを行い、適切な温度・湿度管理に努める。

イ 地温を低下させるために畦面又は畝間かん水を行うとともに、葉焼けを防止するため日中は葉水を散布する。

(3) 育苗・定植時の管理

ア 苗床温度の上昇を抑制するため、寒冷紗等の遮光資材で被覆するとともに、換気・通風に努める。特に、接ぎ木養生中のきゅうりでは、外張とトンネル遮光で温度低下に努める。

イ 苗の徒長を避けるため、かん水は早朝を基本とし、日中高温時にしおれる場合は葉水を行い葉面温度の低下を図る。晴天が続く場合は育苗後半の節水は軽めとする。

ウ 定植後の活着を図るため、定植作業は夕方行う。また、畦立て後の土壤の乾燥に注意し、乾いている場合は植え穴に十分かん水してから定植する。かん水が難しい場合は土壤水分確保のため、定植直前に耕うん・畦立てをする。

エ いちごでは、気温の高い日中は葉を湿らす程度の水量をこまめに散水し、子苗の葉焼けを防止する。

(4) 品目別の栽培管理

ア すいかでは、草勢が弱っているほ場において、「肉質劣変果」の発生が懸念されるため、収穫前には必ず試し切りを行い、品質を確認する。

高温により、日焼け果の発生が懸念されるため、露出している果実はワラやつるなどで覆う。また、草勢が低下しないように定期的にかん水する。

イ トマト、なす、ピーマン等の果菜類では、草勢低下を防ぐため、早期収穫に努める。また、通風と採光を図るため、下葉や弱小枝を除去する。

ウ 加工トマトは、日焼け果、着色不良を防ぐため、果実をワラ等で覆う。

エ ねぎでは、高温時の過度な土寄せ、かん水等は生育停滞や軟腐病など、病害の発生原因となるので避ける。また、軟腐病発生ほ場では、出荷物に罹病株を混入しないよう選別を徹底する。

オ えだまめは、かん水と収穫前追肥で草勢を維持する。

カ さといもやアスパラガスは、かん水で生育停滞を防ぐ。

(5) 病虫害防除

高温・乾燥が続くとハダニ類やアザミウマ類、オオタバコガ等のチョウ目害虫並びにうどんこ病の発生が多くなるので、発生状況に応じて防除する。

5 果 樹

(1) なし

ア 果実肥大の最盛期に入ることから、石なし等の生理障害防止のため、早めにかん水し、土壌の極端な乾湿が起こらないようにする。

イ 西洋なしでは、渋み果や生理障害の発生を軽減するため、土壌水分の急激な変化が生じないよう敷きわら等を敷き、可能な限りかん水する。

ウ 伸長中の徒長枝の整理を行うとともに、二次伸長している場合は追肥を控える。

(2) ハウスぶどう

ア 着色を促進するため、新梢管理を徹底して、棚面を明るく保つように配慮する。

イ 随時、園を見回り、裂果を取り除くようにする。

ウ 露地作型では、着色状況を確認しながら「水回り期」に最終着粒数に仕上げるようにする。

(3) もも

高温多照となった場合は、除袋作業をやや遅めとする。また、着色ムラをなくすため、枝つりや反射マルチの設置等を行う。

(4) 収穫期の留意点

可能な限り果実温度の低い時間帯で収穫し、果実品質の低下を防ぐ。

(5) 病虫害防除

なしの黒星病、西洋なしの褐色斑点病、ぶどうのべと病、かきの円星落葉病、すす点病、いちじくの疫病などの重要病害の防除を徹底する。また、高温期はハダニ類が発生しやすいため、発生状況に十分注意し適切に防除する。

(6) その他

ア 干ばつによる樹勢低下は、貯蔵養分の不足を招き、冬期間の凍害や枯死の原因となるので、樹勢の維持に努める。

イ 草生法の園では、果樹と草の土壌水分の競合をさけるため、草刈りを行う。また、

- 乾燥害を防ぐため、かん水および日焼け対策等を徹底する。
- ウ 収穫が終了した品種から、樹体回復を図るため礼肥を施用する。
 - エ 収穫後、次年度の初期生育のための貯蔵養分が蓄えられる。健全葉を長く維持するため、収穫終了後も病害虫を徹底防除する。

6 花 き

(1) 球根類の管理

- ア 球根類の貯蔵にあたっては、通風に留意し、貯蔵庫内の温度をできるだけ下げよう努める。ただし、過乾燥にならないように注意する。
- イ 促成切り花用チューリップ球根
花芽分化を促進させるため、中温処理を行うとともに、花芽分化段階を把握の上、冷蔵処理に移行する。また、中温処理を行う際は、エチレングスによる障害発生を防止するため腐敗球の除去を徹底するとともに、十分な換気を行う。
- ウ ユリの球根養成ほ場では、適切なかん水に努める。

(2) 切り花・花木類の管理

- ア 草丈やボリュームを確保するため十分なかん水を行う。ただし、収穫間際のものについては過剰なかん水は控え、切り花品質の向上に努める。
- イ かん水は、日中の暑い時間帯を避け、夕方の気温・地温の低い時間に十分に行う。畦間かん水を実施する場合は、長時間滞水しないようにする。
- ウ 抑制ユリ切り花栽培では芽伸ばし・順化处理を十分に行うとともに、定植前に遮光とかん水を行って地温低下と土壤水分の確保に努める。また、植え付け後は発根促進を目的に、敷わらやこまめなかん水を行う。
- エ キク、トルコギキョウ等の草花類では、寒冷紗等の遮光・遮熱資材を利用して葉温の上昇を抑制し日焼けの防止を図る。また、ハウス側面のビニールや周囲の遮へい物等を取り除いて通風を図る。
- オ 採花は朝夕の涼しい時間帯に行うとともに、採花後は速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。
- カ 鉢物類は鉢土の水分に注意し、十分にかん水する。

(3) 病害虫防除

高温・乾燥が続くと、ハダニ、アザミウマ類、オオタバコガ等の害虫や、ユリ茎腐症(リゾープス菌)等の発生が懸念されるので、防除の徹底に努める。

7 畜 産

(1) 飼養管理

- ア 暑熱は家畜の疾病を誘発するため、異常がある場合は早めに獣医師の診療を受ける。
- イ 種付け予定の家畜は畜舎の一番涼しい場所に繋ぐ等、管理をこまめに行う。
- ウ 家畜の体感温度を下げるため、寒冷紗の設置、送風機、細霧システムの運転や毛刈りなどを実践する。
- エ 変敗や劣化を防ぐため、飼料は風通しの良い涼しい場所に保管する。
- オ 採食量の低下を防ぐため、飼槽や飲水設備を点検・清掃し、良質な飼料やミネラル、重曹、新鮮な水の給与に努める。また、飼料は朝晩の涼しい時間帯に給与する、粗飼料の長さを変える、給餌回数を増やすなどの工夫をする。
- カ カビの発生した飼料・品質の悪い飼料は食べ込みが悪く熱を発生させるので給与

しない。

(2) 飼料作物

ア 牧草の2番草は、天候に合わせ速やかに収穫する。また、永年性牧草は夏枯れ防止のため、盛夏では刈り高を10cm前後として貯蔵養分の消耗を少なくする。

イ サイレージの品質を確保するため、飼料用トウモロコシは黄熟期、ソルガムは開花～糊熟期に収穫し、細断、密封を確実に行う。

ウ 稲発酵粗飼料は、ほ場の地耐力が確保されるよう水管理に努め、予乾が可能な場合は材料水分を60%程度にし、ロールベールの梱包密度を高めに調製する。

8 きのこと

(1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。

(2) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。

(3) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。

(4) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。

(5) 極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。